日米鉄道シンポジウム 2026　宿利会長ご挨拶

皆さま、こんにちは。運輸総合研究所（JTTRI）会長/ワシントン国際問題研究所（JITTI USA）会長の宿利正史です。

ご多用の中、APTA（全米公共交通協会）との共催による「日米鉄道シンポジウム 2026」にご参集いただきました皆さま、オンラインでご視聴の皆さまに、心から御礼申し上げます。

まず、先週の高市首相の訪米、トランプ大統領との日米首脳会談でご多忙を極める中、ご臨席を賜りました山田重夫 米国駐箚日本国特命全権大使に厚く御礼申し上げます。

また、米国建国 250 周年という記念すべき年に、このシンポジウムを共催していただきましたスコウテラス会長はじめ APTA の皆さまの、企画段階から本日までのご協力・ご支援に深く感謝申し上げます。

続いて、基調講演を賜ります、
・デビッド・フィンク　連邦鉄道局　局長
・寺田　吉道　国土交通省　国土交通審議官
のお二方に、心から感謝申し上げます。

また、後半のパネル・ディスカッション１では、鉄道投資と経済効果をテーマとして、
・アムトラックから　ロジャー・ハリス様、
・ニューヨーク MTA から ジャノ・リーバー様、
・日立レールから　三浦　英俊様、
・西日本旅客鉄道から　武市　信彦様、
の４名のパネリストに加え、モデレーターとして、
・トム・ライト様
にご登壇頂きます。

さらに、パネル・ディスカッション２では、メガイベントと公共交通の関係に着目し、

・LA メトロから　コナン・チャン様、
・MBTA から　ライアン・コホラン様、
・大阪メトロから　江口　清司様、
・APTA 及び WSP から　ジャネット・ウォーカー＝フォード様、
・東京メトロから　山上　範芳様、

の５名のパネリストに加え、モデレーターとして、

・カルロス・ブラセラス様

にご登壇頂きます。

日米の鉄道分野の有識者の皆様、ご参集いただき誠にありがとうございます。

2019 年以来、この時期に開催する当研究所のシンポジウムは、全米桜祭り協会のダイアナ・メイフュー会長のご賛同とご協力を得て、全米桜祭りの公式行事として開催しております。シンポジウム終了後は、是非、ポトマック河畔の見事な桜をご堪能下さい。

2024 年 4 月に APTA と共催で開催しました「日米鉄道シンポジウム 2024」では、都市間および都市内に鉄道ネットワークを形成することによって生まれる社会的経済的価値と都市の魅力やレジリエンスの向上の効果を議論しました。

その後も、日米両国において鉄道の経済的重要性は一層強調されてきました。後程、各登壇者から詳しいご紹介があると思いますが、現在、日本では東京・大阪を中心として、また、米国では北東回廊や国際イベント開催地を中心に、鉄道整備や駅を核とした大規模な都市開発プロジェクトが進展中であり、さらに、日本の総合鉄道メーカーによる米国への大型投資も実現しました。

さて、米国の鉄道と聞いて思い出す情景のひとつに、1960 年代に一世を風靡し、今でもカバーされ続けている米国出身のフォークグループ、ピーター・ポール＆マリー（PPM）の「500 マイル」があります。お若い方には馴染がないかもしれませんが、「僕の乗った汽車を　もし君が逃したら」、故郷から 100、200、とうとう 500 マイルも離れてしまい、もう帰れない、と嘆く切ない歌詞とメロディーで、日本でも大人気を博した曲です。私も大好きな曲で、私が若い頃に繰り返し聞いたレコードはブラザーズ・フォーが歌ったものでした。

この歌が流行っていた 1964 年 10 月 1 日、東京＝新大阪間に東海道新幹線が開業し、その 10 日後に最初の東京オリンピックが開会式を迎えました。さらにその 6 年後の 1970 年には、大阪で初めての万博が開催されました。

500 マイルといえば、日本ではちょうど東京＝広島間にあたります。かつては特急列車で 11 時間以上かかっていたものが、新幹線の開業により、所要時間が大幅に短縮されました。当時、PPM は「もう帰れない」と歌っていましたが、実は既に、それほど嘆くような距離ではなくなっていました。

そして、PPM から半世紀、２回目の東京オリンピックや大阪・関西万博が開催された現在では、東京＝広島間は新幹線で 3 時間 49 分で、500 マイルは鉄道で日帰り出張や日帰り観光ができる距離となっています。今後、東京から名古屋まで、そして更に大阪まで、待望のリニア中央新幹線が時速 500 キロメートル又は時速約 311 マイルの超高速で運行される時に、どのような経済的・社会的変革やイノベーションが出現するのか、実に楽しみです。

ことほど左様に、鉄道投資は、交流人口の増加や新たなビジネスの創出などを通じて大きな経済効果やイノベーションを生み出します。さらに、メガイベントは、安全性やアクセシビリティへの投資を促し、鉄道サービスの質の改善を通じた顧客体験や生活の質の向上にも継続的に寄与することになります。

最後になりましたが、本日のシンポジウムが鉄道及び交通分野における日米間の協力の深化の礎石となることを祈念しまして、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。　　（以上）